

退任のご挨拶

米沢市長 安部三十郎

十二月二十一日を以って市長職を退任することになりました。三期十二年の間、市政に対してご理解とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。米沢市の今後の飛躍について簡単に所感を述べ、市民のみなさまへの最後のメッセージと致します。

第一は産業についてです。ここ一、二年企業誘致が進んでいます。退任前にさらに一つ喜ばしい発表を致しますが、とにかく若い人たちが残れる、戻れるためには雇用の確保・拡大が大切です。そして市民所得向上のためには、全ての産業において付加価値の高い仕事をするのが肝要です。幸いなことに米沢は三つの大学を擁し、その活用によって産業の高付加価値化を図れる可能性に満ちています。

第二は福祉についてです。少子高齢化や格差拡大の進む社会において、地方自治体はみんなが安心して暮らせることを大前提としたきめ細やかな政策を立ててゆかなくてはなりません。ただし、財源には限りがありますから、市民憲章にもあるように「互いに助け合い」の精神も一方では重要です。まさに愛と義のまちの本領発揮が求められます。

第三は教育についてです。次の世代をきちんと育てないとまちの発展は望めません。米沢は昔から教育・文化を大事にして人を育ててきましたが、幾つかの高校が郊外に出てしまい、街なかから高校生の姿が激減しました。しかしながら、新文化複合施設のオープンによって高校生が街なかに戻ってくるはずで、高校生に限りませんが、市民の目の届くところで子どもたちを大切に育てたいものです。

第四はまちの姿についてです。近頃、道にゴミの落ちていているのが目につくようになりました。ゴミのポイ捨ては住民の心を荒廃させてゆきます。みんなが気持ちよく暮らせる清潔なまちというのは重要なことです。また、本市が進めてきた「花と樹木におおわれたまちづくり」計画によって、市民のみならず、訪れる人からも好きになって貰える美しいまちを目指したいものです。

米沢市の限らない発展を祈念し、ご挨拶の結びと致します。誠にありがとうございました。



帝人社員・家族による「米沢体験・里がえりツアー」で帝人関連史跡を案内する安部市長